

荒西 完治さん（ハッセルト市行政・市民代表団歓迎夕食会参加者）の投稿です。

現在、国際姉妹・友好都市提携数は全国874の自治体で1,725件（自治体国際化協会資料）となっています。多くの自治体では、以前のような国際姉妹・友好都市ブームが去って、国際化の課題が、単なる国際交流から多文化共生社会の在り方や訪日外国人への対応を通じた都市の活性化がテーマになってきました。

よく国際都市交流の意義や市民のメリットなどが論議されますが、一時のブームでなく国際都市交流を通じて出会いがあり、新たに友人や知り合いができることや、持続的に国際姉妹・友好都市のある国に思いを馳せて、その国の歴史や文化に興味・関心が高まることが人生を豊かにしてくれます。

司馬遼太郎氏の著書「街道を行く」シリーズのオランダ紀行のなかで、旅行中の街道で伊丹市の旗を見つけて感動されたという記述があります。そこでは、ハッセルト市と伊丹市が国際姉妹都市だと知ったことが紹介されています。そんな記述を見ると、伊丹市民としても嬉しいものです。私も、以前に伊丹市に勤務して国際交流行政に携わっていた経験から、今回来られた代表団の皆さんの随行ボランティアとして協力させていただきます。

何よりも楽しみにしていたことは、当時ハッセルト市の日本庭園築造事業や交流事業で知り合った職員との再会でした。また今回は偶然に、ご子息がハッセルト市学生代表団として来伊したという女性が代表団におられて、お会いした時に、何と私の名前を憶えておられていたことに感激しました。

ハッセルト市副市長もまた、ご本人が学生時代に伊丹市を訪問されています。歓迎夕食会では、当時苦労した思い出話に花が咲き、楽しいひと時が持てました。1992年に竣工された日本庭園は築造25周年を迎え、2017年は周年関連事業をするとのことでした。

ハッセルト市の日本庭園は欧州で最大規模であり、四季折々の日本文化を紹介するイベントが開催されています。昨年度には、その活動などが評されて外務大臣表彰を受賞しています。いまではベルギー王国の観光案内でも紹介される名所の一つとなっており、伊丹市民としても誇りに思います。

国際姉妹・友好都市提携以来、これまでに学生交流や市民団交流などで多くの市民が相互訪問していますが、一時的な訪問に留まらず、ぜひとも持続的な交流を続けてほしいものです。今では、以前には考えられなかったほどインターネットや情報化が進んで、身近に海外の人々と交流できる時代になりました。これからますます通信技術が発達して、自動翻訳が進んで言葉の壁もなくなる時代になりそうです。

「一期一会」という言葉があります。出会いを大切に、これからも持続的な国際姉妹・友好都市交流を続けていきたいものです。



息子さん以前 学生団として来伊された女性と記念撮影

ベルギー王国ハッセルト市の日本庭園が、外務大臣表彰を受賞しました！

ハッセルト市の日本庭園が、2017年11月20日に開催された開園25周年記念式典において、外務大臣表彰を受賞しました。同園は、1992年に伊丹市の技術協力により建設され、お花見や七夕などの日本文化を紹介するイベントを開催し、ベルギーにおける日本文化の振興に貢献しています。2017年10月15日に開催された竣工25周年記念式典では、150万人目の来園者に伊丹とハッセルトの両市長から記念品が贈られました。



日本庭園

★伊丹市国際・平和交流協会 ボランティア募集★

当協会では日本語学習サロンのボランティア講師として活動していただける方を募集しています。楽しい仲間と一緒に活動してみませんか。交流の輪が広がります。よろしくお申し込み・お問い合わせは、事務局（伊丹市国際・平和課内）まで。

